



社団法人  
長崎青年協会会章

我々は会員の団結と  
相互扶助の精神の基に  
自己の建設と  
会員の親睦を図り  
もって地域社会の発展に  
努むる事を目的とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

# 社団法人 長崎青年協会

スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



シーボルト



シーボルト像



楠本いね



金田製作所

NYA press no.180  
June 1994

## 今月の行事

- |                                    |               |
|------------------------------------|---------------|
| 2日 理事会                             | 26日 留学生と市民の交流 |
| 15日 理事会                            | 28日 定例研修会     |
| 21日 定時例会 講師講演<br>Hニュー長崎<br>海鳳の間B1F | 7月            |
|                                    | 5日 理事会        |

# 6

発行 長崎市魚の町7-7  
 (社)長崎青年協  
 会長 桑田啓  
 編集 広報委員  
 広報委員長 猿渡

## 5月定時例会開催

平成6年5月24日(火)  
於 ホテルニュー長崎

5月24日(火) ホテルニュー長崎に於いて5月定時例会が開催されました。桑田会長の挨拶の後に、この日の講師の長崎県自治研修所の森草一郎先生を迎えました。演題は「路上観察入門」という事で講演が行なわれました。森草一郎先生は長崎路上観察学会設立後、長崎路上観察ガイドブック「歩き目です」を出版され、平成6年4月には長崎路上観察学会アルキメデスを発足、毎月市内外の路上観察を行っています。路上観察とは、人間の作った都市、その街の中にある面白い物、おかしな物、変わった物を見付けて遊んでみようという方法です。講演は、路上観察の説明から始まり次にスライドの上映を行いました。スライドは、講師の説明の下、おかしな建物・看板・石碑・彫刻・レリーフ・マンホール・樹木・植えこみ・井戸・門・路地……etcの紹介が有り、楽しく拝見させてもらいました。路上観察は、遊び心、好奇心があれば誰でも出来、また、お金もかからず歩いて見て回る為に運動にもなります。時間が有る方は、路上観察をやってみると面白いのではと講演を締められました。質疑応答も会員の方々より情報の提供や「歩き目です」の写真の質問等も有りました。講演後は、誕生者祝いが有り誕生者代表として井上章君と末石景一君が、自分の名前の由来、幼い頃の思い出等を話しました。この後、本年度初の3分間スピーチが行なわれ抽選により、渋谷晃君・丸尾隆君・岡田康信君の3名が指名され、コーディネーターとして張仁春君・船津信三郎君・伊藤克樹君が指名され、それぞれにコーディネートをしました。



## 厄入りお祓い 6月1日

## 厄入り懇親会 6月4日



6月1日(水) 早朝6時半より、松の森神社におきまして、今年厄入りを迎える7名の方のお祓いの儀が会員、OBが多数見守る中、執り行われました。

また、6月4日(土) 厄入り懇親会が割烹たなかに於いて行われました。

厄年は、人生を旅にたとえるなら峠の茶屋のようなものだと思います。ちょっと一服して、体方面、健康面を十分に気をつけられて、さらにこれからの人生を歩みつけて欲しいと思います。今年厄入りを迎える7名の方が、無事に過ごされることを、心よりお祈り申し上げます。

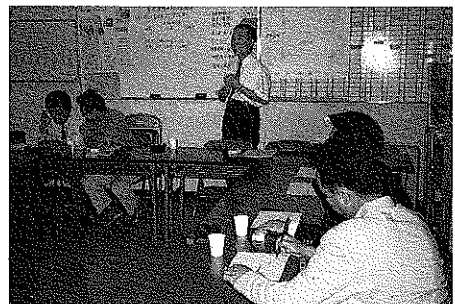
## ＜5月定例研修会＞

平成6年5月18日(水)

於 社団法人長崎青年協会事務局

研修委員会による第2回目の定例研修会が去る5月18日に開催されました。今回の講師に元会員の下田千里君を迎え、テーマは「生命保険の上手な利用の仕方と裏話」と題して行なっていただきました。

講演の内容は、まず簡単な生命保険の仕組みから入り、現在の一般的に加入されている商品の説明と加入状況などの話があり、上手に入るポイントとしては、死亡保証と貯蓄を分けて考え、自分としては何が必要なのかを基準にして選ぶこと。その選び方などたいへん勉強になる話でした。参加した会員の中には、自分の入っている商品がどんな内容かやっとなんか分かった人もいたようです。



# 厄入りに 想う



企画委員会  
松田 広志君  
S.29. 8.6生

自分が厄入りを迎える年になったとは信じがたい心境です。今は仕事に家庭にとたいへんいそがしい毎日ですが、人生の折り返し点だと思うとこれからはまた新たな気持ちで後半戦を頑張っていきたいと思っています。



会長  
桑田 啓伍君  
S.29. 6.22生

男、40になる……。実際何も考えていない。30才になる頃、40才の時にはこうありたいと自分のライフプランを考えた事もあったが、考えていた事の半分も実現していないと……。50才までの10年間自分に期待し、少々無理して病体にムチ打ち驕る事なく人生にがんばりたい。



直前会長  
森 保博君  
S.29. 1.23生

まだまだ若いと思っていたのですが、昨年の運動会のリレーで新々江君に負けてしまい、自分の能力の限界を知らされました。20代、30代は、失敗も成功もふくめて人生経験だったと思います。40代あとの半生をどう過ごすのか、思い惑い模索しながらも常に前を向いて歩いて行きたいと思っています。



監事  
船津 信三郎君  
S.29. 8.5生

厄入りという事については私自身何とも思っていないのですが、本当にもう40才になったのかな？というのが実感です。これからは先の人生を考えて後ろは振り返らずに前進していきたいと思っています。



OB  
山下一正君  
S.29. 1.23生

若い若いと思っていたら、いつのまにか40才になっていました。



事業室長  
合六 忠君  
S.29. 8.20生

「ふとみれば白髪出でし初老かな。」  
哀しいかな髪の毛の薄さ、体のラインの変化より、否応なしに実感せざるをえないものになりました。若さ、体力、知力、スマートさ等々の魅力ではもう到底勝てません。これからは俗世を離れ今熱中しているメダカの飼育に新しい生活感を味わいまじめな日々を送ります。



OB  
沼里 勉君  
S.29. 3.17

同級生達は一足早く厄払いを迎えるときに、早生まれの私は厄入りなので多少とり残された気分ですが、昨年は色々な事が我が身にふりかかって来たので厄を消化したと思っています。今年は何事もないことを願うばかりです。

# 日本・ポルトガル友好450周年記念 『草の根交流』事業参加報告

1994年3月19日～28

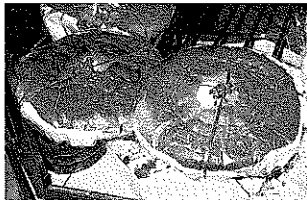
副会長 田川俊幸

## 姉妹都市ポルト市

3月23日(水)、午前8時にリスボンのホテルを出発し、9時35分の飛行機でいよいよ、長崎市の姉妹都市ポルト市へ向かった。

——ポルトワインの名産地でポルトガル第2の都市ポルト市(国名もこのポルトに由来する)と長崎市は昭和53年5月に姉妹都市の提携が行なわれた。以後、双方での伝統文化の交流が何度となく行なわれている。また、ソアレス大統領は、450周年の去年で2度目の来崎。ポルトガル海軍帆船サグレス号も、長崎へは、過去3度寄港している。——

リスボンより所要時間45分でポルト市到着。新築のポルト空港ビルには、在日ポルト名誉領事カルヴァーリョ氏と、ポルト市の外渉課長パウロ氏、通訳の武田さんの出迎えを受け、ホテルへ。打合せと昼食後、現地の観光ガイドさん(若くて…ごつい男性)による市内視察。歴史ある町並みを車を使って駆け足で廻るためガイド氏は早口。日本語が若干苦手な通訳の武田さんは、それを丁寧な日本語に訳すため少し時間がかか



カステラの元祖「ポンドロー」

る。従って、たまに遠くから目の前に迫りくる景色と解説の時間差攻撃に、団員一同「ここはどこ？」ホテルに戻り最初から復習をする市内視察となる。しかし、途中立ち寄ったドロウ河に架けられたドン・ルイス1世橋から望んだ眺めは、その美しさに絵葉書の中に閉じ込められた様な感動を覚えた。また、その橋のすぐ下に建ち並ぶポルトワイン倉庫群の見学でワインの試飲を行い、その味わい深さに(何杯もおかわり出来た事に)個人的に感動を覚えた。

## アウレリアノ・ヴェローゾさん

その日の夕食会は、ポルト市の主催で、美しきドロウ河沿いにある昔の要塞跡をそのまま利用したレストラン「ドン・トニオ」にて行なわれた。そこには、長崎とポルトが姉妹都市提携を結んだ時の元ポルト市長、アウレリアノ・ヴェローゾさんが、我々を待っていた。ここでも、日本人の口に合った大変おいしいポルトガル料理を堪能しながら、ヴェローゾさんの長崎での思い出話に聞きいった。私が、長崎の平和公園内にポルト市より送られた平和のモニュメントのお礼を言うと、ヴェローゾさんは、「それは黒御影で出来たものか？その横には私が植樹した木が立ち、根元のプラカードには私のサインが書かれているはずだ。」と、長崎に住む私より詳しかった。また、音楽の話でも盛り上がり(ちなみに息子さんは、ポルトガルでも有名なポピュラー歌手で、ヴェローゾさん自信もファドを歌われるそうだ)食後、地元のラマウデ青年団も加わり歌の交流会となった。驚いたことに、ヴェローゾさんは、持参したギターの弾き語りで、さだまさしの「無縁坂」を日本語で歌い出した。つられて我々も声を合わせ歌った。次にポルトガル民謡を地元青年団と合唱し、我々の歌声は夜遅くまで、ライトアップされたドン・ルイス1世橋の姿を映すドロウ河の水面に流れた。



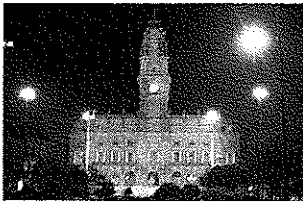
ヴェローゾさん

## ポルト市での行動

3月24日(木)、午前10時30分ポルト市庁舎にてフェルナンド・ゴメス市長を表敬訪問した。宮殿を思わせる市庁舎の、広い応接室にて会見した大変ダンディーなゴメス市長に対し鈴木団長より今回の『草の根交流』の趣旨説明があり、市長より歓迎挨拶の後、この日のスケジュールを尋ねられた。そこで、事前に設定された団体と別に、その場でこの日の訪問先に青年2団体を紹介いただき、今回の事業に対する深い理解と素早い行動力に感激した。その後、記念品の交換や、現地記者による記念撮影、記念記帳をして土産にポルトワインもしっかり頂きゴメス市長とお別れした。

フィリナンド・ゴメス  
ポルト市長

11時30分、ポルト市とドロウ河を挟んでお隣のガイヤ市にある日系企業



夜のポルト市庁舎

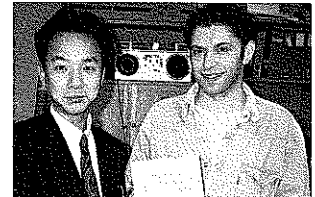
「矢崎サルタノ」を訪問した。矢崎総業90%、サルタノ10%出資の合併で現在7年目、主に自動車のワイヤーを組電線にする生産で年商46億エスクード、現地従業員約3,000名は、殆どが若い女性だった。ヨーロッパでもポルトガル女性の器用さ勤勉さは定評があり、今でもドイツ等から嫁探しに来るそうだ。

昼食後、ポルト市へ戻り午前中にゴメス市長から紹介頂いた「ポルト市青年財団」と「ポルト市青年実業団」を訪ねた。2団体、同じ場所の事務所だったので、代表の方より主な事業活動の内容を伺ったところ若いアーティストにアトリエを提供して展示会を開く文化育成事業、若い事業者に資金援助やオフィスの提供をする事業者の育成等、実務的活動を積極的にやっておられた。ここは、ポルト市の若者が頻繁に出入りする所なので、日本から持ってきた5円玉をその趣旨を伝えて、より多くの若者に渡して頂くよう代表者に託した。

続いて、昨夜の音楽交流に参加頂いた「ラマウデ青年団」を訪ねた。事務所に入ると先ず目に入った壁1面に並べられたマンガ本の説明をリーダー格のヴェトル氏より、区の子供たちへの無料貸し出し等の青少年育成事業の説明を聞いた。他の活動としては、区の月刊新聞発行、文化事業等、地元のラマウデ区に密着した活動を推進している。その熱のこもった説明を伺っているうち、長崎青年協会員として共感を覚えた。そこで長崎で去年行なった「ふうせんバレー」の事業報告書の写真と現物の風船を見せながら、障害者と健全者が一緒になり出来るスポーツを紹介した。彼らは、福祉活動もやられてるそうで、大変興味深そうに聞いてもらった。持って行ったビデオはシステムが合わずに渡せなかったが後日ダイビングして送ることを約束して、記念撮影後ラマウデを後にした。

午後5時、お隣のヴァイン区「ヴァイン青年団」に入った。主に貧困救済事業活動の報告を聞き他に文化、青少年育成等の活動も行なっていた。以上、この日の青年団体との交流において、非常に熱意を持ってその地域の中で活動している姿に感動し、この交流の芽を育てる事が今後の課題だと強く思う。

※ 今回で『草の根交流』報告を終わります。しかし、前述の通り、本事業は、これからが始まりです。今後、ポルトガル青年との交流を、実のあるものへと発展したく思っています。意を興じる方がいらっしゃれば有志を募りますので是非私までご一報下さい。最後に素晴らしい出会いの機会を与えて戴き、有り難う御座いました。 田川 俊幸



「ラマウデ青年団」にて

## 国際開発委員会

国際開発委員会では「ながさきみなとまつり」へのパレード参加を軸とした「留学生のつどい」を年間を通し行う予定です。

6月26日(日)には、留学生と市民との草の根交流の一環として語ろう会を行います。これは第2回「世界のまつり」「世界のあそび」というテーマで語り合い、多に市民とのスキンシップを図り日本に昔から伝わるゲームを行うなどして、国境を越えた交流が深まることを目的としています。第2回目には、世界の衣装をまとった留学生がパレードで「ながさきみなとまつり」に参加するなどすばらしい企画を立てています。

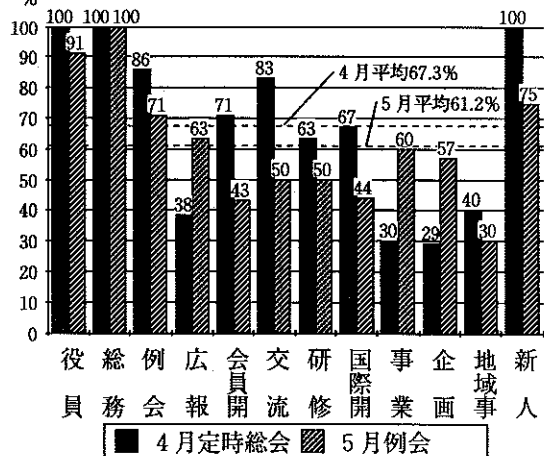
長崎市企画部文化国際課、(財)長崎平和推進協会の協力を得て、毎日のように委員会、資料集めを行っています。

又、国際交流の一環として5月26日には、長崎総合科学大学の留学生新人生歓迎パーティに出席し交流を深めてきました。このようにして原委員長

を中心とした国際開発委員会は、6月26日(日)の語ろう会に向けて努力しています。当日は、是非、多くの出席をお願いします。

## 総務・例会委員会

4月、5月の例会出席比率です。各自一層奮起努力を!



### ソフトボール同好会

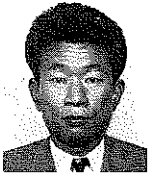


来たる5月24日、長商グラウンドで、リーグ戦第2回戦目が行われました。相手チームは以前に練習試合で敗れている強者であります。第1回戦目を(見事に?)勝利した我がチームの面々は、この試合ももらったとばかりに意気込んで試合に臨む。ああ悲し、雪辱はならず敗戦してしまいました。来年こそはがんばります。

### パソコン同好会

永らく活動をしていなかったパソコン同好会が5月16日(月)から再復活しました。内容はXbaseの勉強会でXbase言語による「会員データベース」を作成しながら、データベースの考え方を理解し、それぞれのアイデアをどうプログラムへ落とし込んでいくかを学びます。同好会は事務局で行なわれ講師として会員の白山光男君が教え1回目からパソコンに熱意ある方々が集まりました。この勉強会は6月末まで毎週月曜日に行なっていますので興味のある方は、誰でも参加して下さい。パソコンを持ってない方でもOKです。

## △ 新 人 紹 介 △



原田文忠君

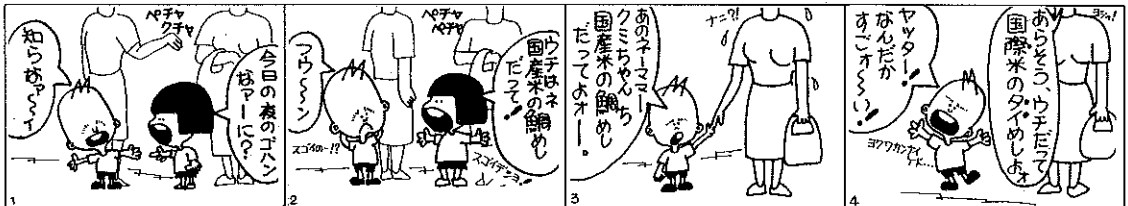
S35年5月6日生(34歳)  
勤務先 有限会社フロンティア  
長崎市本原町12-12  
自宅 同上  
妻 真理さん 子供お二人



後田秀司君

S43年10月23日生(25歳)  
勤務先 (有)マルクス・  
インターナショナル  
長崎市西山町4丁目760  
自宅 長崎市興善町2-33

## おれBABY



## ● 甦れ! 歴史人物100選 (表紙説明) ●

いよいよ6月、梅雨の季節。オタクサと紫陽花の季節となりました。紫陽花は、シーボルトがおたきさんにちなみオタクサと名付けたことをご承知のとおりですが、今月はシーボルトとその娘いねにスポットを当ててみました。

### 人物紹介

**シーボルト (1796 寛政8~1866 慶応2)**  
フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト、オランダ商館医として出島に着任し、はじめ吉雄塾、檜林塾で、後に鳴滝塾で多くの門人を育てたがシーボルト事件で国外追放となった。

**楠本いね (1827 文政10~1903 明治36)**  
シーボルトとおたきの娘。石井宗謙、大村益次郎の門に入り、また、ポンペ、ボードウィンマンズフェルトに師事し産科を専門に学び宮中御典医をつとめた。

### ゆかりの地紹介

**シーボルト宅跡**  
鳴滝町; 大正11年国指定史跡に指定された。隣接したシーボルト記念館には、貴重な資料が展示されている。

**楠本いね開業の地**  
銅座町; 明治3年から東京築地で開業していたが明治10年から長崎の銅座で開業した。金田製作所付近である。